

あぶた福祉会

第34回

**地域サポートセンター
ふれんどから並んで歩
んでいく**

今 年は、洞爺湖町内のケアホ
ームで生活している女性1
名が成人を迎え、同じく男性
(28歳)1名が、昨年に就職
が決まり、3月に伊達市で行わ
れた『新規就職者を祝う会』に
出席しました。若い人達の門出
に声援を送りつつ、暖かく見守
る、そして迷っている時はそつ
と背中を押して、一步を踏み出
すことができるように応援して
いきたい、そんな思いが強くな
ります。



町内のケアホームでくつろぐ
利用者の皆さん

現在、男性28名、女性25名、
計53名の方が地域で生活してい
ます。平均年齢は45歳で、最高
齢の方は78歳で、50歳以上の方
が4割を占めています。若い人
達が未来への一步を着実に歩ん
でいる一方、地域での生活の暮
らしの実現を目指し、支援展開
をしてから25年が経過し、当時
30〜40歳代のエネルギー溢れる
頃に暮らし始めた人達は、現在
は50〜70歳代、健康面に何らか
の問題を抱える方が増えてきて
います。

一昨年、青葉町に重度・高齢
者対象型の共同生活住居『ケア
ホームうらら』を開設し、世話
人が24時間支援に当たる体制を
取り、入居者が安全、且つ安心
して暮らせるようにしました。
しかし、他の住居においても、
50〜60歳代の方が増えてきてお
り、今後も住環境の整備に重点
をおいた対策の検討と実現が大
きな課題となります。

ところで先日、時の流れを感
じる出来事がありました。利用
者数名と買い物に出掛けた時に

友愛の里開設当初から働いてい
た元職員(以後Yさん)に偶然
会い、皆、感動の涙を流しなが
ら近況を報告しました。親や昔
の仲間が亡くなったこと、自分
の健康のことが報告の中心でし
た。それを聞いたYさんはしば
しの沈黙の後「そうだね。もう
そんなに経ったんだね」と呟
きました。

そんなやり取りのを聞いてい
て「30年経つということは、そ
ういうことなんだ。皆、その分、
年を取っていく、それが30年を
歩んだということなんだ」。長
い間、利用者の皆と一緒にいる
と、年を取ったということは解
っているつもりでも、つい、昔
のままのように錯覚することが
あります。そう感じた時、ふと
「皆は地域での生活が楽しい、
充実していると感じてきたのだ
ろうか」と疑問が湧きました。
昔話には目を輝かせているけ
れど、今の生活の話をする時は
不満であったり、非難であった
り。年を取ると「昔は良かった
と」言う言葉が口癖になるもの

ですが、それだけではないよう
に思います。Yさんが一人の利
用者に「そこが貴方の良いところ
だよ」と言って抱きしめた時、
答えはそこにあるように感じま
した。人と人とのつながり、共
に生きようとする篤(あつ)い
思い、きつと一緒に並んで歩ん
だのでしょ。私も利用者と並び
ながら、少しずつ、着実に前に
進んでいくことができるよう、
努力していきたいと思えた出来
事でした。(M・S)

ティンセンター いちばんほしから

新しい作業をしています。

今 年は雪解けが遅く、まだま
だ春の到来が遅く感じてお
ります。いちばんほしも新年度
を迎えて、新たな気持ちで始ま
りました。なんとと言っても新し
い作業を行っているからです。
一時期は配線を組み立てる仕事
が都合によりなくなってしまう
収入が減り、利用者も暗い気持
ちになった時期がありました。が、
新聞の回収袋や封筒作りを行い、
皆様に購入していただくことで、
少しずつ元気を取り戻して
きました。

そんな中、昨年末にホテルな



新しい作業に取り組む利用者の皆さん

どで使う部屋着の洗濯物たまた
の仕方の話がありました。初め
枚数は少なかったのですが、
徐々に増え、今では1日150
0枚くらいをたたむようになり
ました。立ち仕事であるため、
今までは座って行う作業が主で
あった利用者たちは、腰が痛い
と言いながら取り組んでいまし
たが、作業台の高さを変えるな
どしたことで、座り仕事をして
いた時よりも一生懸命取り組む
ことが出来るようになったと感
じています。

これから観光シーズンになる
ため、枚数も増えていきますが、
綺麗にたたむことを目標に頑張
りたいと思います。洗濯物たた
み作業の間を見ながら、封筒
や回収袋も製作しておりますの
で、ご購入の方もよろしくお願
いします。(Y・K)